



令和7年度

第10回大垣市中学生

ベルギー・ナミュール市研修派遣



2025年9月13日～9月23日

令和7年度フレンドリーシティ交流事業

第10回大垣市中学生ベルギー・ナミュール市研修派遣事業

団員名簿（学年、五十音順）

派遣期間：令和7年9月13日(土)～9月23日(火・祝)

| No. | 役名 | 氏名 | 性別 | 学校名 役職名もしくは学年 |
|-----|-------|----------------------|----|------------------|
| 1 | 団長 | なかむら やすお 中村 康男 | 男 | 大垣市立東中学校校長 |
| 2 | 総務兼通訳 | ふかや みほ 深谷 美穂 | 女 | 大垣市立赤坂中学校教諭 |
| 3 | 総務 | よしやす みえ 吉安 三恵 | 女 | (公財)大垣国際交流協会職員 |
| 4 | 団員 | さだい ちか 定井 千佳 | 女 | 大垣市立北中学校2年 |
| 5 | 団員 | たにむら ゆう 谷村 優 | 女 | 大垣市立興文中学校2年 |
| 6 | 団員 | わたなべ いちの 渡邊 都乃 | 女 | 大垣市立東中学校2年 |
| 7 | 団員 | うえだ なつ 上田 なつ | 女 | 大垣市立赤坂中学校3年 |
| 8 | 団員 | こくぼ れな 小久保 玲那 | 女 | 大垣市立赤坂中学校3年 |
| 9 | 団員 | さとう わたる 佐藤 豊 | 男 | 大垣市立江並中学校3年 |
| 10 | 団員 | つちや はると 土屋 遼人 | 男 | 大垣市立赤坂中学校3年 |
| 11 | 団員 | なかしま ゆうた 中島 悠汰 | 男 | 大垣市立南中学校3年 |
| 12 | 団員 | ながや あんり 長屋 杏理 | 女 | 大垣市立南中学校3年 |
| 13 | 団員 | らんぐれす しど ラングレス 志土 | 男 | 大垣市立赤坂中学校3年 |

第10回 大垣市中学生ベルギー・ナミュール市研修派遣 日程表

派遣期間:令和7年9月13日(土)~9月23日(火) [11日間]

派遣人数:13人(中学生10人、引率者3人)

| 日付 | 現地時間 | 行程 |
|--------------------|---|---|
| 1 9月13日 (土) | 6:20 12:00 19:15 21:30 22:15 23:50 | 岐阜羽島駅集合 6:47岐阜羽島駅発⇒新大阪駅⇒8:40関西空港駅着 関西空港発(アムステルダム空港へ)【KLMオランダ航空(KL868)】  アムステルダム空港着 アムステルダム空港発(ブリュッセル空港へ)【KLMオランダ航空(KL1707)】  ブリュッセル空港着 ホテル到着 【ホテル泊(ブリュッセル空港近く)】 |
| 2 9月14日 (日) | 11:30-16:00 18:00 | ブリュッセル(Brussels)見学 [EUビジターセンター、グランプラス、サンミッシェル大聖堂] ナミュール到着後、ホストファミリーと対面し、ホストファミリーの家へ 【ホームステイ①】 |
| 3 9月15日 (月) | 8:15-16:30 | 《中高一貫校(Institut de la Providence (Champion))訪問》 ・英語クラス活動 ・理科クラス活動 ・チョコレート作り体験 ほか、ベルギー生徒と授業を通した交流  【ホームステイ②】 |
| 4 9月16日 (火) | 9:00-12:30 13:30-16:30 | 《中高一貫校(IATA)訪問とナミュール施設訪問》 中高一貫校(IATA(専門職業科の学校))訪問 ・写真学科や時計学科などの授業見学やワークショップ ナミュール市内で壁画アート巡り 【ホームステイ③】 |
| 5 9月17日 (水) | 8:15-10:00 10:30-12:00 14:00-15:00 | 《ナミュール市内見学と市役所訪問》 中高一貫校(Institut de la Providence (Champion))訪問 ・ホストシスター、ホストブラザーの授業に参加 ナミュール城砦とナミュール城砦の香水調合所ガイドツアー  【ホームステイ④】 |
| 6 9月18日 (木) | 9:15 11:30-16:30 17:00-18:45 21:15 | 《ブリュージュ(Bruges)とオースデン(Oostende)訪問》 ナミュール駅集合(電車でブリュージュへ) ブリュージュ訪問[ボートツアーと市内見学] オースデン訪問[ビーチ] オースデン駅⇒ナミュール駅[電車] ナミュール駅到着  【ホームステイ⑤】 |
| 7 9月19日 (金) | 9:15 10:30-16:15 19:30-23:00 | 《ルーヴァン・ラ・ヌーヴ(Louvain-La-Neuve)とさよならパーティー》 ナミュール駅集合(電車でルーヴァン・ラ・ヌーヴへ) ルーヴァン・ラ・ヌーヴ訪問[タンタンミュージアム、ルーヴァン大学] 学校でさよならパーティー  【ホームステイ⑥】 |
| 8 9月20日 (土) | 終日 | 《ホストファミリーと過ごす》 ホストファミリーと過ごす  【ホームステイ⑦】 |
| 9 9月21日 (日) | 15:00まで 16:00 | 《ホストファミリーと過ごす》 ホストファミリーと過ごす 中高一貫校(Institut de la Providence (Champion))集合 ホストファミリーとお別れし、ブリュッセル空港近くのホテルへ 【ホテル泊(ブリュッセル空港近く)】 |
| 10 9月22日 (月) | 8:00 12:00 12:30 14:35 | ホテル出発し、ブリュッセル空港へ ブリュッセル空港発(アムステルダム空港へ)【KLMオランダ航空(KL1704)】  アムステルダム空港着 アムステルダム空港発(関西空港へ)【KLMオランダ航空(KL867)】 【機内泊】 |
| 11 9月23日 (火) | 10:20 15:00 | 関西空港着 12:44関西空港駅発⇒新大阪駅⇒14:46岐阜羽島駅着 岐阜羽島駅解散 |

訪問先の紹介

ベルギー

| | ベルギー | 日本 |
|----|-----------------------|------------------------|
| 人口 | 約1,170万人 | 約1億2,380万人 |
| 面積 | 30,528km ² | 377,972km ² |

【公用語】

3つの公用語があり、主に北部はオランダ語、南部はフランス語、ドイツ国境近くの一部ではドイツ語が公用語です。またブリュッセル首都圏では、オランダ語とフランス語が公用語で、公共の案内は2つの言語が併記されていました。フレンドリーシティのナミュールは、フランス語圏に位置しています。



【料理】おいしい料理がたくさんあります。いくつか紹介します。他にもワッフルなどスイーツもいろいろありました。



▲ムール貝



▲フリット(フライドポテト)



▲リエージュ風肉団子



▲ジビエ料理(うさぎなど)

ナミュール市

| | ナミュール市 | 大垣市 |
|----|-----------------------|-----------------------|
| 人口 | 約11万人 | 約16万人 |
| 面積 | 175.50km ² | 206.52km ² |



▲ナミュール市の市庁舎の壁画
(ベルギーの有名なものが描かれています)



「鐘楼」があるなど、歴史・文化が息づく都市です。

大垣市とは、1998年（平成10年）、大垣市制80周年の年にフレンドリーシティになり、以降学生交流を中心に交流をしています。派遣事業は平成13年（2001年）に始まり、今回が10回目となりました。

▲ナミュールの街並み



▲ナミュール城砦

大垣とナミュールの交流を紡いだ夢と感動の11日間

大垣市立東中学校 校長 中村 康男

個性豊かな人材育成とフレンドリーシティであるベルギー・ナミュールの人々との友好の絆を更に強くすることを目的に派遣された10人の中学生は、この研修を通して、大垣とナミュールの交流のかけ橋となって活躍するとともに、それぞれが成長を実感し、未来への希望を抱くなど、見事にその目的を達成することができました。

1 大垣市中学生の英語力とコミュ力の高さにびっくり

ヨーロッパは多種類の言語が使われているので、違う言語の人との会話に英語が使われることが多いです。訪問先のナミュールは主言語がフランス語ですが、ホストファミリーでの会話は英語で行われていたようです。

派遣中学生10人は、ある程度英語に自信や関心がある生徒たちでしたが、会話のスピードと知らない単語の多さに苦しみながらも、ホストファミリーでの生活はもとより、学校や街なか、飛行機の中でも出会った人に、自分が知っている単語を使い、身振り手振りを交えながら、積極的に会話し、交流を楽しんでいました。外国人を見ると尻込みした自分の学生時代と比べると、随分開けており、世界で活躍できる生徒たちだと思いました。協会の吉安さんも年々大垣の中学生の英語力が高くなっているとおっしゃっていました。

2 ベルギーの街並みの美しさと人々の温かさに感動

ベルギーは、戦禍や大きな自然災害もほとんどなかったことから、世界遺産のブリュージュやグラントプラスの建造物をはじめとして、どこへ行っても石造建築物や石畳があります。ヨーロッパらしい美しさや優雅さ、落ち着きを感じる街並みをあちらこちらで見ることができ、思わずうっとりしました。また、ナミュールの人たちは、どこに行っても私たちを温かく迎え入れていただき、特に交流を受け入れていただいた学校やホストファミリーは、文化や習慣の違う私たちのことをよく理解し、気遣って応対してくださいました。帰国する際には、派遣団全員が、後ろ髪を引かれる思いでナミュールを後にするとともに、またいつか来たいという思いになりました。

3 約7か月の取組で10人の友情が確かなものに

5月31日の全体説明会で初めて顔を合わせた時には、よそよそしさを感じましたが、月に2回ペースで行われた事前研修で、フランス語を学んだり、大垣市の紹介プレゼンを作成したりするなどのプログラムを重ねる度に、仲良くなり、気軽に話すことができる仲間になっていきました。

11日間の研修派遣中は、男女学年に関係なく誰とでも会話し、情報を共有したり、わからないことを教え合ったりするなど、気が付けば10人がいつも一緒に行動していました。また、大垣市の発表やゲームをする際には、練習の時よりアドリブを入れたり、盛り上げたりして、その場の楽しい雰囲気を創り出しました。

極めつけは、帰りのアムステルダム空港のことです。空港へのサイバーテロの影響で、予約していた飛行機の座席が13人分確保できておらず、予定した便とクアラルンプールを経由する1日遅れで到着する便に分かれるという緊急事態が起きました。その時、ある生徒は帰国翌日から修学旅行があるというのに、「帰国が遅れてもよいので、みんなで次の便で帰ろう」と言い、ある生徒は「〇〇中は修学旅行があるので、先に帰った方がいいよ」と、また別の生徒は「私は体調もよいので私が残ります」と、口々に仲間を思いやる言葉が飛び交いました。適切な判断が求められる場面で、派遣された10人の思いに救われるとともに、10人の確かな友情を感じました。

4 2026年は日本とベルギーの国交樹立160周年

来年は、ナミュールからの派遣団が大垣に来られます。今回、素敵なものとなりました感謝の気持ちを込めて、日本人が大切にしている「おもてなし」の心でお迎えしたいと思います。



左からメヒアン先生、校長先生、フロヒアン先生、ナミュール市長、駐ベルギー三上大使、中村、深谷先生、吉安さん

やってみようという気持ちで挑戦、そして笑顔の力

大垣市立赤坂中学校 教諭 深谷 美穂

今回のベルギー研修では、英語教員として生徒たちと過ごしながら、一人ひとりの成長をすぐそばで感じることができました。初めは不安そうだった表情が、日を追うごとに明るく、自信に満ちていく姿を見るたびに、心からうれしく思いました。学校では見ることのできない生徒たちの新しい一面に、何度も胸を打たれました。

生徒たちは本当に積極的でした。チョコレート作りや学校での授業、街歩きなど、どんな体験にも目を輝かせて取り組み、「やってみよう!」「話してみよう!」という前向きな気持ちがあふっていました。慣れない英語で一生懸命伝えようとする姿、相手の言葉に耳を傾けようとする姿勢に、純粋な好奇心と学ぶ力を感じました。そのひたむきな姿に、私自身もたくさんのエネルギーをもらいました。

今回のベルギー研修では、生徒たちがこれまでに学んできた英語を使いながら、一生懸命にホストファミリーや現地の人々と交流する姿が印象的でした。言葉に詰まりながらも、身振り手振りや笑顔で思いを伝えようとする姿に、私自身が何度も心を打たれました。英語教員として、生徒たちの成長を目の当たりにできたことを誇らしく思います。最初は緊張していた生徒たちも、次第に笑顔が増え、言葉を超えた心のつながりが生まれていきました。別れのときには涙を流し、抱き合う姿も見られました。短い時間の中で、国を越えて人と人がこんなにも深くつながることができるのだと感じました。

この研修を通して、私は改めて「笑顔は世界の共通言語」だと思いました。英語はもちろん大切なコミュニケーションの手段ですが、笑顔にはそれ以上の力があります。うまく言葉にできなくても、相手の目を見て笑い合えば、心が通じ合う。そんな瞬間を何度も目にしました。

ベルギーの人々の優しさにもたくさん救われました。ホストファミリーは生徒たちをまるで自分の子どものように受け入れ、温かく迎えてくれました。そのおもてなしの心に触れ、文化交流とは“違いを学ぶこと”だけでなく、“同じ人間として分かり合うこと”なのだと実感しました。

生徒たちは、言葉の壁を越えて自信をつけ、人の温かさを知り、自分の世界を大きく広げました。私にとっても、この研修は“英語を教える”という枠を超えて、“心を伝えること”の尊さを改めて学ぶ機会となりました。今回の経験を胸に、これからも生徒たちと共に、笑顔で世界とつながる力を育てていきたいと思います。今回このような素晴らしい経験をさせていただいたことに深く感謝し、今後に生かしていきたいと思います。



大切な家族や仲間に出会えた

公益財団法人大垣国際交流協会 吉安 三恵

ナミュールは、私が携わってきたフレンドリーシティ交流事業の中で、もっと多く関わってきた都市です。それだけにたくさんの方とご縁をいただいて、ナミュール側の担当者、以前ホームステイさせていただいた家族、9年前に大垣を訪問した当時の高校生(今は社会人)など、たくさんの人とよい関係を持続でき、交流を続けています。生徒たちも、今回の訪問を通してこれから長く続く友人に出会える交流になればと思って準備を始めました。

訪問を終えた今、3つのことを振り返りたいと思います。1つ目は、異文化理解です。ベルギーでは新しいことの連続で、見るもの、食べるものの、会う人、すべてに対して多感で好奇心いっぱい。昼休みに、学校の校庭のベンチで昼食を食べましたが、パッと見ると大垣の中学生は何十人のベルギーの生徒に囲まれて、いろんな質問を受けていました。ベルギーの生徒も、日本の生徒を通して日本について知りたいという思いを持ってくれていたことはとてもうれしいことでした。また、日帰り旅行の日は、ホストブラザー、ホストシスターも一緒に電車に乗って出かけました。言葉は違っても同年代同士、みんなでゲームをしたり、音楽、日常生活、好きなことなどを話題におしゃべりをしたり、折り紙を作ったり。誰とでも心を開いて打ち解け合い、みんなが一つとなっていた両国の生徒たちの様子は「これが交流だ!」と感じる場面でした。相手を知りたい、そして互いを尊重しようという思いがあれば、理解し合うのは難しくないことを、両国の生徒たちから教えてもらった気がします。そして、この交流を通して、両国の生徒たちは大切な友人や仲間に出会えたと確信しています。

2つ目は、団の目標に対する姿勢です。団目標は「一致団結して、積極的に楽しみ異文化を学んで理解する」です。一つになってお互い困ったことがあったら助け合おうという意味が込められています。ホームステイ初日の夜、多くの団員は緊張と不安でいっぱいでした。そこに、「なんとかなるよ!楽しいよ!」というある団員のメッセージ。「せっかくここに来たんだ。積極的に楽しむんじゃなかつたの?」と言っているようで、不安いっぱいの他のメンバーの気持ちを和らげたように感じました。次の日からは、みんな楽しくて仕方のない日々が始まりました。誰かが不安に思う時、上手くいかない時、お互いのことを思いながら鼓舞できる、そんな素敵なかみになりました。

3つ目は、継続した交流についてです。今回の訪問を通して「交流への理解者」がどれだけいるかが大切だと強く思いました。約10年前、今回訪問したシャンピオン中高一貫校の校長先生が高校生を連れて大垣にいらっしゃいました。この時からこの学校を中心に交流をしています。この校長先生は3年ほど前に別の学校に移られましたが、国際交流に理解のあるフロヒアン先生に引き継がれました。2年前に訪問した際は、フロヒアン先生がほぼ全てを担っていましたが、今回は他の先生方のサポートが多くありました。情熱のある人が一人いるだけでは継続できません。担当者をサポートする体制、それは行政であったり、学校であったり、生徒やその家族など。周りの理解とサポートがどれだけあるかにかかっていると強く思いました。それがあれば、交流は継続していくはずです。うれしいことに、今回の交流を通して、両国の若者、その家族、先生方など将来の交流を支えてくれる理解者がまた増えました。

団員のホストブラザー、ホストシスターは来年5月に大垣を訪問されます。交流の2nd Stageが楽しみです。5月には感謝の気持ちを持ってお迎えしたいと思います。



ベルギーでの思い出



ドキドキワクワクがいっぱいなベルギー

大垣市立北中学校2年 定井 千佳

【9月15日Champion学校訪問(午後)】

午後は、ホストシスターとペアを組み、「新聞じゃんけん」から活動が始まりました。本来はWelcomeセレモニーの出し物として行う予定でした。最初は少し緊張した雰囲気でしたが、じゃんけんを重ねるうちに笑い声が広がり、会場全体が明るくなっていました。私のペアは早い段階で負けてしましましたが、周りのみんなが笑顔で盛り上がっている様子を見ているだけでも楽しくなりました。この活動を通して、言葉が違っても笑顔や楽しむ気持ちで通じ合えることを実感しました。

次に、英語で行われる科学の授業に参加しました。小学生と一緒に、実験器具に関するすごくをしました。すごくは簡単なルールだった一方で、スパチュラやブンゼンバーナーなど、これまで聞いたことのない実験器具も多く面白かったです。その後は教室を移動し、物理の授業を受けました。高校生と一緒に、水を入れた約1メートルのガラス管を傾けて、中の泡が線に到達する速さを測る実験を行いました。英語の説明はよく分からなかったものの、周囲の生徒の動きを見て理解しながら実験を進めることができました。

授業のあとは、とても楽しみにしていたチョコレート作りの時間です。「学校でチョコレート作りができるなんて最高!」と心の中で思いました。溶かしたチョコレートにクリームやナッツを加えたり、型に流して固めたりして、3種類のチョコレートを作りました。私はクリームを入れる作業を担当しましたが、多すぎても少なすぎてもきれいに仕上がらないため、ちょうどよい量を絞るのが難しかったです。失敗もみんなで笑い合い、楽しい時間を過ごすことができました。



【ベルギーで出会った絵本と漫画の文化】

ベルギーを代表する漫画といえば「タンタン」です。タンタンの漫画は登場人物が生き生きとしていて、フランス語が分からなくても絵を見るだけでワクワクします。絵だけで物語を伝えることができるというのはすごいなと思いました。ミュージアムショップには、フランス語版、ドイツ語版、英語版など、さまざまな言語で出版された本が並んでいて、ベルギーが多言語の国であることを改めて実感しました。



私は絵本や漫画が好きなので、日本との違いにも強い関心を持ちました。本屋さんの絵本コーナーでは、絵本ははっきりとした線と力強いタッチのものが多かったように思いました。日本の絵本は細い線や水彩のような柔らかい色合いで描かれているものが多いので、とても興味深いと思いました。また、ナミュールではフランス語に翻訳された日本の漫画が多く、「Manga」というコーナーには「名探偵コナン」や「ワンピース」などの人気作品だけでなく、とてもたくさんの漫画が並んでいました。日本の漫画が想像以上に親しまれていることに驚きました。

語学の学習には、絵本や漫画が役立つのではないかと感じました。日本語の絵本で言葉を覚えたように、フランス語の絵本を使えば、楽しく単語や文法を学ぶことができそうです。日本語版と見

比べながら読むと勉強になるかもと思い、漫画「スパイファミリー」のフランス語版を購入しました。

【楽しくて幸せな11日間】

ベルギーでの日々は、見るものや食べるもの、聞こえる言葉のすべてが新鮮で、驚きと感動にあふれていきました。

私のホストファミリーは、ホストシスターのルーナ、姉のアナイス、お兄さん、そしてマザーとファザーの5人家族でした。初めて会ったときは緊張しそうで、言葉がなかなか出てきませんでした。笑顔で優しく話しかけてもらっても、すぐに反応ができませんでした。ホームステイでの初めての夜ご飯は、緊張と疲れで、食欲がなく、マザーが作ってくれた料理もなかなか喉を通らず、出てきたフリットも食べたいなと思いながらも食べられなかったことをすごく後悔しています。



日本でも初対面の人と話すのは苦手なほうですが、ベルギーに来て、せっかくの機会を無駄にしたくない、このままではいけないと思い、文法を気にせず知っている英単語を並べたり、翻訳アプリを使ったりして、自分の気持ちをできる限り伝えるようがんばろうと思いました。

2日目には、少し慣れてきたのか、食欲もでてきました。マザーが作ってくれた白身魚の料理はとてもおいしくて、2回もおかわりできました。マザーのお弁当はトマトとバジルで味付けしたマカロニやサンドイッチ、夜ご飯でもパスタなどが多く、ベルギーは小麦を多く食べるなあと実感しました。

言葉があまり通じなくても、ホストファミリーは優しく接してくれ、声をかけてくれたり、ボードゲームなどで緊張をほぐしてくれたりしたことが、とてもうれしくて、印象的でした。スーパーでおすすめのお菓子を教えてもらったことも、楽しい思い出の一つです。



日本の食文化を紹介するために、ご飯とふりかけ、海苔を持参し、ホストファミリーと一緒ににおにぎりを作りました。英語で味の説明をするのは難しかったけれど、みんな興味津々でした。それぞれが自分の手でおにぎりを作り、「とてもおいしい!」と笑顔で食べてくれました。

ルーナとアナイスと一緒に行った最終日のナミュールのお祭りでは、「フリットが食べたい」と急に言った私のわがままにも笑顔で応えてくれて、一生懸命にフリットの店を探してくれました。なかなかお店が見つからなくて申し訳ないなと思いつつ、お店が見つかった時はみんなで喜びました。どんなサイズかも分からず選んだフリットはとても大きく、揚げたてでした。これがみんなで食べる最後の料理かと思うと、寂しくなってしまいました。

私がお菓子好きだと伝えていたこともあり、帰国の際にはホストマザーがチョコレートやグミなどたくさんのお菓子を持たせてくれて、とてもうれしかったです。中にはベルギーで人気の三角錐の形をした「キュベルトン」というお菓子がありました。外側は砂糖でカリッとしていて、中からシロップのようなものがとろりとでてきて、とても甘くて、初めての食感で、美味しかったです。



別れのときは泣くつもりはなかったのに、自然と涙がこぼれてしまいました。昨年、私の家にホームステイしていたホーツも見送りに来てくれました。次に会えるのはいつになるのだろうと思っていたので、また再会できたことが本当に嬉しかったです。ベルギー研修を通して、私はもうひとつの家族やベルギーの友達、一緒に参加した団員たちと、かけがえのない経験と思い出を得ることができました。私にとって一生の宝物です。

Merci, ma famille belge!

大垣市立興文中学校2年 谷村 優

【9月19日 ルーヴアン・ラ・ヌーヴ訪問、さよならパーティー】

私たちはベルギー南部のワロン地域に位置する計画都市、ルーヴアン・ラ・ヌーヴを訪れました。この街はルーヴアン・カトリック大学の新キャンパスを中心に築かれ、大学の移転に合わせて新たに作られたものです。歩行者の通行が優先となっており、中心部は車の通行が制限されているため、安全で落ち着いた環境が保たれていました。街には若者が多く、ナミュールと比べて活気に満ちた雰囲気が漂っています。通りすがりの方から“Hello!”と気軽に声をかけられ、フレンドリーな人が多い街だと感じました。



LOUVAIN-LA-NEUVE-UNIV.駅のすぐ近くにある、タンタンの冒險で知られるベルギーを代表する漫画家エルジエの功績を讃えた「タンタンミュージアム」も訪れました。この博物館ではエルジエの生涯や創作の過程を紹介する展示が行われており、原画やスケッチ、出版物、映像資料などが豊富に展示されています。日本の漫画が擬音や吹き出し線で感情やスピード感を表現する一方で、ベルギーの漫画は色彩やキャラクターの描き方に絵本のような静かな語り口が感じられることに気づきました。同じ「漫画」という文化であっても、国や地域によって表現の方向性が大きく異なることを改めて実感しました。

その夜、先生方やホストファミリーの方々が私たちのために「さよならパーティー」を開いてくださいました。パーティーでは滞在中の思い出をまとめたスライドが上映され、懐かしい場面が次々と映し出されるたびに笑い声や歓声が上がりいました。終始、楽しく心温まる時間を過ごすことができました。私たちは感謝の気持ちを込めて、大垣の法被をホストブラザーやホストシスターに贈りました。その後はカラオケを楽しんだり、みんなで踊ったり、他のホストファミリーとも語り合ったりしました。不思議なことに、まるで家族のような一体感を覚え、別れが近づくにつれて寂しさが込み上げてきました。誰が誰のホストファミリーかという垣根を超え、互いに大切な友人として、仲間として自然に打ち解け合っていることに気づき、「もっと長くこの場に居たい」と心から思いました。



【日本の文化は浸透しているのか】

私はベルギーでどの程度日本の文化が浸透しているのかに興味をもち、注意深く観察してみました。日本の作家による書籍は多く流通していると感じられます。ホストシスターのクロエも漫画好きで、普段よく訪れる書店に連れて行ってもらいました。日本のように書店全体が漫画コーナーで占められているわけではありませんが、一角には日本の漫画のフランス語版がしっかりと並んでいました。特に気になっていたのは、日本の漫画にある特徴的な擬音表現がどのように翻訳されてい

るのかという点です。実際に見ると、場面によって異なる表現が用いられており、アルファベットで表記されていることが多いようです。例えば、携帯電話の着信音は「RRRRR…♪」といった形で表現されていました。

また、ゲームコーナーには葛飾北斎の富嶽三十六景の浮世絵が描かれた俳句を題材にしたゲームHAIKUが販売されていました。2~5人で浮世絵のカードを使いながら詩を詠むゲームで、言葉の感性と推理力が問われるようです。ただし、5・7・5のリズムに合わせているかどうかは定かではありませんでした。



【ホームステイと研修全体を通して】

私はホストファミリーに、書道で漢字の名前を書いてプレゼントしました。さらに、水で繰り返し書ける水習字セットを使いながら、書道の作法や筆の運び方を伝えると、クロエはずっと好きだった日本の漫画のキャラクターにちなんだ「愛」という漢字を何度も書いていました。



クロエは日本文化への関心が高く、「日本には9万以上の漢字があると聞くけれど、そのすべてを知っていなければ日本語がわかるとは言えないの?」といった鋭い疑問を投げかけたり、日本の新聞の読み方について「これはどんな順番で読むの?」と積極的に学ぼうとしたりする姿勢がとても嬉しく感じました。



また、ホストマザーのソラヤが作ってくれたりエージュ風ミートボールは、これまでに食べた中で一、二を争うほどの絶品でした。あまりの美味しさに、レシピを書き留めもらうほどで、欠かせないソースのシロップもお土産に購入しました。さらに、ワッフルに使う小麦にはさまざまな種類があると教えてもらい、特にバニラフレーバーの小麦を勧められました。日本で本場の小麦を使い、あのベルギーで食べた本物のワッフルを再現してみたいと思っています。

日本語を使わない日々の中で、私が強く実感したことは、言葉そのもの以上に「相手を理解したい」という思いと、耳を傾ける誠実な姿勢こそが、何よりも大切だということでした。わからない言葉も、わずかな補足やジェスチャー、表情を交えるだけで通じ合い、互いの思いが伝わった瞬間の喜びや感動は、心に深く刻まれています。言葉が違っても、思いやりの心があれば真のコミュニケーションは必ず成立する——そんなことを身をもって実感しました。



心の底から笑い合い、感動を分かち合い、そして別れの寂しさを共有する。そうした大切な時間を共に過ごした私たちは、言葉の壁を超えて深く分かり合える存在になれたのだと気づかされました。私を温かく迎えてくれたホストファザーのトーマス、ホストマザーのソラヤ、そしてホストシスターのクロエ。彼らの支えがあったからこそ、不安や孤独に苛まれることなく、充実したかけがえのない日々を送ることができました。この素晴らしい出会いと経験に、心から感謝の気持ちでいっぱいです。Au plaisir de vous revoir!



笑顔が絶えない研修

大垣市立東中学校2年 渡邊 都乃

【9月16日 IATA学校訪問】

9月16日は、IATA中高一貫校を訪れました。ベルギーでは、普通科の中高一貫校と専門職業科の中高一貫校があります。IATA中高一貫校は丘を少し登った所にあり、綺麗な学校でした。IATA中高一貫校にはたくさんの学科があります。私たちは、木工、印刷、ジュエリー、写真、時計作りを専門とする学科を見学しました。

木工の学科では、チェスの板、日本で言うカラクリ箱に近いような小さい棚などもありました。チェスの板でも一画一画丁寧に作られていて、少しでも削るところを間違えたり、ズレたりしたりするとはまらなくなってしまうので作業している生徒さんが職人さんのように見えました。

印刷の学科では、使用されている印刷機の中に日本の会社のMIMAKIが作った大きな印刷機もありました。私達が普段やるような印刷ではなくとても大きなものの印刷。木材に印刷して切り抜くなど初めて見る技術がたくさんありました。また、作業する教室では壁にたくさんポスターが貼ってあってかわいい雰囲気の教室でした。

ジュエリーの学科では、金属の板に絵を描いて、それを生徒さんが専用の工具を使って切ってくれました。はじめに絵を描いたとき“細かくてこの時間内に終わらないよ”と言われてしまってどうなるか不安でしたが、手作業で削った後、専用の機械を使ってピカピカしてくれて自分だけのネックレスができ、とても思い出に残る体験でした。



写真の学科では、パソコンを使って写真を編集していました。一枚の写真でも細かい光の当て具合や写真の角度などを変えながらいくつものパターンを作り、その中からいいものを選ぶそうです。細かすぎて違いがよくわかりませんでしたが、技術が凄いのはとても伝わってきました。



最後に行った時計を作る学科では、目に小さなルーペをつけて、腕時計を直したり、組み立てをしたりしていました。とても細かい作業になるので、一言も喋らずに集中力を切らさないようにするそうです。また、教室の中には見本として日本の会社、セイコーの時計が置かれていて、日本の技術は海外でお手本にされるほど凄いのだなと思いました。また、時計を作る工程のようなもの部品が実際に置かれていました。

廊下には今までの生徒が作って、表彰された作品が置かれていました。とても細かく、素人には仕組みがわかりませんでしたが、私達に年齢の近い子が作っていてすごいと思いました。

【ベルギーの人になりきろう】

私は、探求テーマで「ベルギーの文化、マナー」について調べました。なぜこのテーマにしたかというと日本にも食事や挨拶のルールがあるようにベルギーにもそのような文化やマナーがあるので?と考えたからです。研修に行く前に調べたことは、美食の国と呼ばれ、世界的に有名な画家や、絵本を輩出しており、家族との時間を大切にするということがわかりました。研修中に特に驚いた



のは家族との時間です。ベルギーには食前酒を楽しむという文化があり、私のファミリーでは夕食前にありました。その時間には必ず家族皆で集まり、お菓子やマザーが作ったケーキなどを食べました。本当に家族との時間を大切にするのだなと思い、自分もそこに入れてもらっていることがとても幸せでした。挨拶のマナーでは、仲のいい人同士だと頬と頬をくっつけて挨拶をします。また、学校に行くとわかりますが多文化国家ならでは、本当にいろんな国の方々がいてみんな仲良く授業をしたり、ご飯を食べたり。人々の心の豊かさや、多様な価値観を体験しました。日本ではなかなか体験できない事なので、私にとってとても学びをくれる時間でした。

【一生の思い出】

研修を通して思うのは、自分の笑顔が増えたなということです。ホームステイではもちろん、他のホストファミリーや団員と過ごした時間は一生忘れることのない大切な思い出になりました。私のホストファミリーは、お父さん、お母さん、お兄ちゃん、シスターの4人家族でした。家族皆、私がわからないときは進んで翻訳機を使ってくれたり、話しかけてくれたり、いつの間にか家族の一員になり、笑顔で過ごせるようになっていました。空いた時間には一緒に「スカイジョ」というゲームなどをして楽しみました。説明もすべて英語なので難しかったですが一番好きなゲームになりました。皆と楽しめてとても良かったです。普段は英語なんて使わないので英語が苦手な私は苦戦したときがたくさんありました。でも、翻訳機を使い、単語単語だけど、話すことができて、少し英語が好きになりました。休日には家族とお祭りと「モダーヴ城」に行きました。お祭りは規模が大きくてビックリしました。また、竹馬に乗って相手を落とす競技があり、私だったら、絶対乗れないだろうと思いました。最後の一人になるまで応援しました。お城は、歴史があり「美女と野獣」の世界に来たような感覚でした。お城の歴史なども知ることができて日本の城とは全く違うので建物の周りからも異世界に入ったようでした。



建築士になりたい私にとって建物の構造も装飾も勉強になった一時でした。昔ここに住んでいた人たちはどんな生活をしていたのだろうと思ったし、他のお城も見てみたい!と思いました。



思い出を全部書いてもいいよと言われたらここには収まりきらないほどあります。また、撮ってきた写真を見返す、家族に見せるたびにまた戻りたいと思います。初めは緊張で心配ばかりだったけど、お別れの時

は涙でいっぱいでした。ベルギー研修を笑顔で終われたのはホストファミリーのおかげで、感謝しかないし、大好きです。私は自分の意見を言う、進んで声を出し、交流するのが苦手でしたが研修を通してベルギーの子達と積極的に関わったことで自分の中にあった殻を破ることができました。新しい発見と一生の思い出になった研修でした。

Bestでしかないmemory

大垣市立赤坂中学校3年 上田 なつ

【9月18日 ブリュージュとオースデン訪問】



ベルギー旅も折り返し地点に入りました!! まず
私たちは電車で数時間かけてブリュージュへ行きました。9世紀から始まり、大垣と同じ水の都と呼ばれています。街中は、至る所に運河が見え、とっても素敵でした。ブリュージュの街並みは“!!まさにヨーロッパ!!”「ヨーロッパといったらどんな街並みを想像する!?」と聞かれたら、私は今後ブリュージュの風景を思い浮かべるでしょう!! 例えば一面石畳だったり、馬車が走っていたりするところです。自由行動を終えた後はみんなでボートツアー!!何と



ガイド音声に日本語が流れてJapaneseメンバーたちがぶち上げ♪ 操舵手さんも、盛り上がるJapaneseを見て(自)ポーズ。陸から見る景色とはまた違って、なんか飲み込まれるような感じでした。ブリュージュは何もかもとっつても綺麗でした!!!!

ブリュージュの後はオースデン!! 向かったのは海!! まずは裸足になって砂浜ダッシュ!!か・ら・のまさかの着水!!私のこの日の服装は長袖ヒートテックに長袖トレーナーで丁度いい感じでした。天気はというと曇りで海風がビュービュー。何が言いたいかというと“寒かった”のにも関わらずほとんどの人がノリで入水。(もちろんJapaneseは全員)でもそのおかげでとってもいい写真が!!ほとんど全身入ったJapaneseも存在しました。

ブリュージュとオースデンのおかげで最高の1日を過ごせました!!

【ベルギーと日本の個性比較】

①食事

夜ご飯の前には食前酒というのがあり、チップスなどを食べます。朝はだいたいパンで夜の主食は大体ポテトか小麦(キノアやクスクス)。食事を取るのに使うのはナイフとフォークとスプーン。びっくりしたのは骨つきチキンを食べるにも手ではなく、ナイフとフォークだったので綺麗に吃るのは難しかったです。スパイスなどをたくさん使っていて、お店もホストママのご飯もおいしそうだ!!美味しいすぎて私は滞在中に一度も日本食が恋しくなかったです!!

②学校の様子

初日多くの目線を集めながら学校内へ。廊下の窓辺や床に座っている生徒が沢山!!お昼ご飯中みんな集まってきていっぱい写真撮れました!!私は最初は受け身だったけど、生徒のみんなが英語喋れる訳じゃないのに話しかけてくれるのが嬉しくて私からも行こうって前向きになれた!!5日目の訪問では、授業を受けていると、突然警報…なのにみんな喜んでいてパニック!!先生に聞くと火

災報知器だそう。本当か聞くと分からぬって言うからガンダ(笑)で校内から逃げたかったけど皆んなおしゃべりタイム!!でも結局訓練でした。後からシスターのアマリアに聞くと訓練は火事だけで地震や不審者はないそうです。

【ベルギーのホームシックになるべくしてなってしまった11日間】

私は行く前、楽しみと同時に不安も同じくらいあって、冷静に考えたら一度も面識がなく、言語も違うのにどうしようと焦っていました。学校に向かうまでのバス内では圧倒的に不安が大きかったです。初対面では家族全員と犬のWillouまでお出迎えしてくれたけど、ド緊張!!いざ車で家に向かう時にホストママが「Are you tired?」って聞いてくれたけど、なんて言ってくれたか分かんなくて3回も聞き返し、先行きが不安すぎたのが覚えています。でもみんな本当に良くしてくれてとつつつつ

つつつつって楽しかったです!!お家のご飯が毎食本当に美味しい大感激!!!!こうやって書いている間も凄く恋しい泣。私のファミリーの家族構成は、パパ、ママ、アマリア、妹(エマニュエラ、マヨン)弟(ジェヘミ)犬(ウィルー)猫(シビ)留学生(なつであります私)の大家族でした。

ベルギーはとてものどかで、草原に風力発電機と牛が沢山いるところがあって晴れも曇りも霧の日も心が落ち着く景色でした。放課後は日本のお土産を紹介したり、ボードゲームを沢山やって楽しかった!!マリオカートは2回とも1位をとった!!流石にここはJapaneseの意地見せつけタイム。1日フリーの日は私リクエストのspa(温泉)にママとアマリアにつれていってもらいました。車で1時間くらいかかったけど3人で好きな曲聴きあったり恋バナしたりで暇な時間ない!!ママ運転ありがとう泣。個室で水着で猫足のバスタブ入ってプールみたいなところ行ったりご飯食べたりお昼寝したり優雅すぎた!!その後は団員のファミリーの家で深夜までパーティー!!ハイテンションでソーラン踊りました。いっぱい泣いて笑って悩んでこのパーティーだけで思い出が多すぎる。一番現実を受け入れられなかったファミリーと過ごす最終日。いつもより早く起きてフランス語で手紙を書きました。お好み焼き作ったけどボロボロになって失敗!!ボロボロのお好み焼きをナイフとフォークで上品に食べるみんなを見て密かにジワっていました。でも味は好評!!その後はアイス屋さんで団員&その子のファミリーと合流!!外で食べたけど寒すぎて、アマリアの震えが椅子越しに伝わって面白かった笑。そして迎えてしまったお別れ。学校までの通学路もファミリーと一緒にいれるのも最後かと思うと本当に悲しくて大号泣でした。

この研修で沢山の新しいことを体験し、学ぶことができました。初めてこの目で見た日本以外の景色は今も鮮明に覚えています。この研修に関わってくださった皆様、貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。色々な経験を経て、自分自身が内面的に変わりつつあるのではないかと感じます。私は、特に物事に向かう姿勢や捉え方を学び、更に向上させていきたいと思っています。先ほどの個性比較でも書いたように、現地の子たちがフランス語が分からぬ私に必死で英語で伝えようとしてくれる姿勢が嬉しかったです。更に「聞こう、理解しよう!!」という気持ちになる事に気がつきました。「これ絶対難しいからやめよう。やらない。」ではなく、「まずやろう。できる!!」という気持ちや捉え方は、言葉で示せる事ではないからこそ大切だと感じました。これに気付かてくれたみんなにはとっても感謝しているし、尊敬しています。今でもファミリーや現地の友達と連絡をとっていて、昔の自分では想像ができない程良い経験を積み続けることができています。この経験は、将来必ず生かし続けます。ありがとうございました。



忘れられない一週間

大垣市立赤坂中学校 3年 小久保 玲那

【9月15日 Champion 学校訪問(午前)】

朝は、ホストシスターと一緒に登校しました。この学校は中高一貫校でたくさんの生徒が在籍しており、受けたい授業を一人ひとり選択する方式です。敷地は広く、まず集合の部屋に行くまでの廊下が日本の学校の廊下に比べて、幅が広くて長いことに驚きました。



Welcomeセレモニーが始まるまで、1日目のホームステイについて、日本のメンバーの間で情報交換しました。久しぶりと言っても1日ですが、日本語で人と話すのが新鮮に感じたことが印象に残っています。Welcomeセレモニーでは、学校の校長先生も出席してくださり、私たちはそこでベルギーでは初の大垣市の紹介をプレゼンしました。ホストシスター・ブラザーたちが、私たちが出したクイズに手を挙げたり、声を出して参加してくれたりして、少し距離が縮まった気がしました。その後、ホストシスター・ブラザーたちもベルギーについて、プレゼンをしてくれました。

Welcomeセレモニーが終わった後は、ベルギーの先生と生徒が説明しながら学校案内をしてくれました。学校の中には、教会や歴史に関わる物が置かれている部屋がありました。

私たちが、最初に参加した授業は『英語』です。そこでは、私が日本の英語の授業でもやったことがある、『Kahoot!』という、タブレットやスマホを使ってクイズをし、一位を目指すゲームのようなものをしました。ベルギーの生徒と2人でペアを作って協力し合いました。この授業の生徒のみなさんも、ベルギーの紹介プレゼンをしてくれました。スライド一枚一枚がとてもおもしろい工夫がしてあって、笑いが絶えない時間でした。

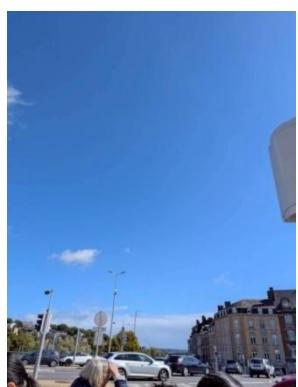
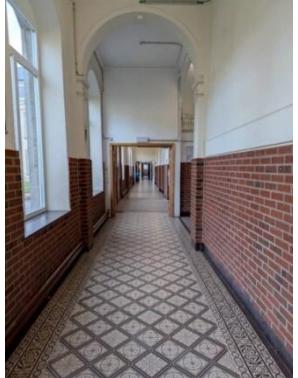
昼食は、中庭のベンチでサンドイッチを食べました。日本人だけで食べていると、ものすごくたくさんの生徒が、興味を持って話しかけに来てくれました。私も食べていると、『いただきます!』と後ろから男子3人が、話しかけてくれました。いただきますという言葉を知っていることに驚き、日本に興味を持ってくれていることが嬉しかったです。

【ベルギーの気候を体験】

私の探求テーマは、『気候の特色』についてです。

私たちが滞在した一週間は、晴れの日と曇りの日が、同じぐらいの割合でした。

とりわけ、9月16日にIATA中高一貫校を訪問した日の天気の変わり方は、とても印象に残っています。朝、ホストシスターと登校したときは曇り。IATA訪問中は、晴れ。訪問を終え、歩いて集合場所に行くときは雲のほど



んどない快晴。ですが、ナミュール市内を、写真を撮りながら、散策する時間は曇りになり、急に雨が降り出しました。その雨は通り雨でしたが、散策を一時中断したぐらい強く、何回か繰り返しました。このように、天気が一日でたくさん変わるのは、ベルギーの気候の特色と事前に勉強していたので、実際に体験できて、貴重な一日になりました。

急に雨が降り出したとき、ホストシスターたちは焦ることなく、冷静に『屋根のある所に行こう』や『雨が止むまで一緒にゲームをしよう』などと対応してくれました。それらの対応を見て、このようなことはよくあるから、慣れているのだなと感じました。

【ベルギーの家族に仲間入り!】

初めてホストファミリーと会ったときは、物凄く緊張していました。ですが、とにかくずっと笑顔でいようと自分で決め、私はずっとニコニコしていると自然と緊張がほぐれました。英語だけで話すのもあまり経験がないし、文法を使って文章を考えるのも苦手だとホストシスターのエリーゼに伝えてあったので、英語も使いましたが、翻訳機を見せあいながら会話をしました。その日の夕食は、食べたいと伝えてあった、フリットと煮込んであった牛肉でした。フリットは、ホストファザーが庭にある机で揚げていました。カリカリでおいしすぎて、2回ぐらいおかわりしました。



私は、ベルギーに行く前に、エリーゼからお好み焼きを知らないし食べてみたいと、聞いていたので、家でお好み焼きを作りました。ベルギーのキャベツには、いくつか種類があるそうで、日本のものに似ているものを買ってもらいました。肉も必要なことを伝え忘れたので『肉なしお好み焼き』を作ることになりました。キャベツを切ろうとすると、虫食いや汚れがひどく、一玉分捨ててホストファザーがもう一度、買いに行ってくれました。待っている間に、一番下の弟のエミリアン、エリーゼと私でマリオカートをしました。結果は、私がすべて1位を取ってしまい、エミリアンがとても悔しそうにしていました。大人げないことをしまって、とても後悔しています。

新しいキャベツが届くと、エリーゼも切るのを一緒にやってくれました。『肉なしお好み焼き』になってしまったことは残念ですが、みんな『Good! Delicious!』と言って食べてくれました。エミリアンは日本から持ってきた、濃い味のお好み焼きソースが、口に合わなかったらしく、一緒に出されたトマトスープをかけて食べてくれました。

私のホストファミリーは、ボーダーコリーの犬を一匹飼っていて、名前はジョイといいます。一日ホストファミリーと過ごす日に、ジョイと一緒にサッカーをしました。ジョイにボールを優しく蹴ると、口を使って止めて離すので、それを繰り返して遊びました。

私はこの研修で、日本では出来ない体験ばかりさせてもらったおかげで、良い人生勉強になったと思います。最後の日には家族全員と打ち解け合って、会話を楽しめるようになって本当の家族のようになれました。これからも連絡を取り、またいつか絶対にベルギーにもう一度行って、ホームステイをしたいです!!



ベルギーのすべてにMerci~!!

大垣市立江並中学校3年 佐藤 亘

4日目(9月15日)の午後は、みんなで市内散策をした後に、ボウリングをしました。

【市内散策と白熱のボウリング】

市内散策は、ナミュール市内にあるアート壁画を最低15か所、ベルギーの生徒と日本の生徒が4人1組でグループになり、スタンプラリーの様に写真を撮ってくるという内容でした。市内散策が始まると同時に僕のグループは「run! run! run!」と言ってダッシュしました。

なぜそんなに急ぐのかって?それはもちろん早く終われば終わるほど、早くベルギーワッフルが食べられるからです!!そして開始から15分くらいすると快晴だった空が突然曇り始め、少し強めの雨が降ってきて雨宿りで足止めを食らいました。そのとき僕はベルギーの天候は急に変化しやすいと聞いていたので、本当なのだと、この身で体験することが出来ました。その後、グループ体験が終わってついに本場のベルギーワッフルにありつくことが出来ました。本場のベルギーワッフルは、とてもふわふわで甘くおいしかったです。ベルギーワッフルを食べながらの談笑が終わると、みんな一度、ボウリングの支度をしに解散しました。



ボウリングでは、ボウリングが得意な人もボウリングが苦手な人も全員楽しむことが出来ていたし、ベルギー人と日本人関係なく国境を越えてしまうほどの盛り上がりをみせ、笑顔と笑い声でいっぱいでした。一方僕は、ボウリング未経験だったので、ガーター、ガーター、またガーターと、ガーター繰りで、2ゲームで16点という恐ろしい点数を叩き出したのは良い思い出になりました…。

【日本とベルギーの生活文化の違い】

日本とベルギーの生活文化は似ているところも違いもありました。例えば、ベルギーは食事の際のテーブルマナーがあり、美しく食事をすることが意識されているところが日本と似ています。違うところは公衆トイレです。ベルギーは日本と違い、1回の利用につき1ユーロ(約170円)ほどのお金を払う必要がある有料制のところもありました。また、ベルギーは急な天候の変化などがあるゆえに、ベルギーの人達は、普段から折り畳み傘などを常備している人が多いなどの生活文化の違いがありました。



【My homestay】

僕がホームステイをさせていただいた家族は、父のデニス、イタリア人の母のシルヴァーナ、ホストブラザーのアントワーヌ、そしてモフモフボディの猫のジギーの3人と1匹のとても温かい家族でした。はじめての対面の時、僕は前々から連絡を取り合っていたにも関わらず、緊張で今までに学

習してきた英語などが全く出てこず、最初は「OK」と「Thank you」しか言いうことが出来ませんでした。それでもホストファミリーはそれを笑うことなくスマホの翻訳などを使って真摯に僕との意思疎通を図ろうとしてくれ、とても安心したことを今でもはっきりと覚えています。ホームステイ初日、家に着いて最初に、家も庭も「でっつかあ！」と衝撃を受けました。

家に入ると猫のジギーが出迎えてくれました。それから家の色々な物の使い方を教えもらった後、夕食にラザニアを振舞ってくれました。

2日目では、まだまだ身の回りに日本語が無いことに慣れることが出来なく、ベルギーの人達とも上手くコミュニケーションが取れないこともあって、悔しさと虚しさでいっぱいになりながら眠りにつきました。そして、ついに3日目からはスムーズに会話…とはいかなくとも知っている単語を繋げて簡単なコミュニケーションを取る程度なら出来るようになり、とても嬉しかったです。

4日目は今回のベルギー派遣で一番おいしい料理を食べた日でした。その名も「ほうれん草ペーストのスマーケサーモンペンネ」です。この料理はイタリア人のホストマザーが得意としている料理で僕は何と3回もおかわりをしてしまいました。夕食を終えると日本からのお土産として、箸とけん玉と扇子をプレゼントしました。みんなとても喜んでくれたので自分で悩んで選んだ甲斐があったなあとしみじみしました。4日目以降からは時があっという間に過ぎてしま



い、すぐにホームステイ最終日を迎ってしまいました。最終日の朝は最後だという実感があまり湧かず、「あともう1年延長したいなあ」と思うだけだったのが、別れの時間が近づくにつれてどんどん悲しくなってきて、最後は笑顔で見送ってもらおうと思っていたのに、集合場所に着くと号泣てしまいました。そして家族全員で抱き合あい「I will definitely come to see you again(必ずまた会いに行きます)」と言いバスに乗り込み、僕のホームステイ

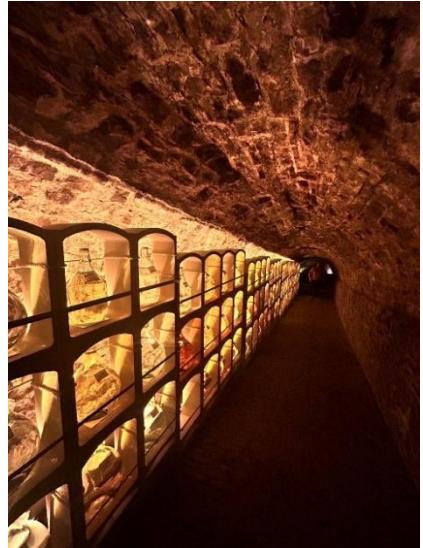
は幕を閉じました。この体験は僕に大きな影響を与えたと共に言葉と笑顔の大切さを、身をもって体験した僕の宝物になりました。ベルギーのすべてにMerci~!!

初めての大冒険

大垣市立赤坂中学校3年 土屋 遼人

【9月17日 ナミュール城砦、市役所訪問】

市役所にいきました。そこで、フランス語で自己紹介をしました。練習してきた「ボ・ア・ジュ・ジュ・ジェ・ジェ・ハ」の自分の紹介をうまく説明できたかわからないけど、自分なりにうまくできたと思ったので良かったです。日本ではなかなかいい、女性の方が市長さんでびっくりしました。そんなところに日本との文化の違いを感じました。フランス語で自己紹介をするとき「大丈夫かな」という不安と緊張がまじりあった気持ちでいっぱいでした。その後、ケーブルカーで上のほうまで登りました。そこから、見る景色はとってもきれいでいた。元々、戦争のとき武器倉庫として使われていた場所を香水を作る場所にした施設に行きました。戦争のときの雰囲気が残っていた感じがしてすごかったです。お店の前を通りかかった瞬間、ふわっと上品で華やかな香りが風にのって漂ってきてきました。店内に一步踏み入れると、色とりどりの香水の瓶が並び、それぞれが個性豊かな香りを放っていました。甘くやさしいもの、爽やかで清涼感のあるものなど本当にさまざまな香りがあり、どれもが美しく、魅力的でした。店の奥へと進んでいくと、まるで秘密の空間のような、地下のような場所へと案内されました。そこには、これまで見たこともないような大きな瓶に入った香水がずらりと並べられており、まるで魔法の薬のように輝いて見えました。瓶の中には、特別に調合された高級な香水が詰められていて、そのひとつひとつに丁寧な説明が添えられていました。スタッフの方に聞いてみると、ひとつの瓶につき数十万円ほどするものもあるそうです。香水はいろいろなおいがあってむずかしかったです。



【衣・食・住の違い】

日本ではなかなか見かけることのない煉瓦つくりの家が、ベルギー(ナミュール市)では、どこを見渡しても煉瓦で作られた家しかないぐらいたくさんあったことがとても印象的でした。家の広さも、日本の家の1.5~2倍ぐらいあってびっくりしました。ホストファミリーの家の窓から外をみると、大きな風車が3つ、4つとたくさんあって、改めて土地の広さに驚かされました。食事では、お店に行ってご飯を食べるときには、フリットがついてきました。ほかにも、移動販売店のようなところで、ハンバーガーとフリットを買ってもらいました。そこで買ってもらったフリットが



とても多く、食べきることができませんでした。

ベルギーの人たちは寒さに慣れているのか日本人はみんな長袖なのに、ホストブラザーやホストシスターはみんな半袖でした。ホストブラザーに「寒くないの?」と質問すると「寒くない」と言われてとてもびっくりしました。どこを見ても、日本とは全く違うような景色が視界いっぱいに広がっていました。その景色は、帰ってきた後も鮮明に覚えているぐらいでした。



【ホストファミリーとの思い出】

ホストファミリーの方と、はじめて出会ったときは、緊張や不安もあってなかなか会話することができませんでした。しかし、僕のホストブラザーの子が「一緒にゲームしない?」と誘ってきててくれて、緊張がすこしほぐれました。その優しさがとてもうれしかったです。ホストファミリーの方と出会ってから



の次の日Championに一緒に登校しました。久しぶりに日本語を聞いた気がして少し安心しました。みんなが少しずつホストブラザーやホストシスターと会話を頑張っている姿を見て「これはやばい」と思って会話をしてみようと頑張ってみました。しかし、なかなか勇気が出ませんでした。団員の子がしゃべっているところに一緒に入って行って、会話できるようにならいました。そのおかげで、いろんな子と話すことができ、さらに交流を深めることができました。はじめは不安なことがたくさんあったけど、仲間と協力し支えあえたことでより良い時間を過ごすことができました。

最後のお別れパーティーでは、新聞じゃんけんを行いました。最初にやったときは、緊張もあったのかおんぶをしている子が少なかったです。しかし、お別れパーティーのときは、みんな仲良くなっていておんぶしていた子も多かったです。今回の研修を通して、言語が通じることはなくても、伝えようとする気持ちを持つことが大切だと感じたし、言葉でうまく伝えられなくても表情やジェスチャーなどそういった気持ちさえあれば、思いはしっかりと伝わることができるなどを知ることができました。最初は、全然会話すること



ができなくて、正直「怖いな」「うまくできるのかな」と不安な気持ちでいっぱいでした。どれだけ失敗しても、どれだけわからなくとも、みんなが優しくしてくれたおかげでどんどん一緒に過ごしているのが楽



しくなり、不安な気持ちは無くなり、最後は帰りたくない感じるほど良い研修にすることができました。ただ、言語や文化を学ぶだけでなく自分自身を成長させられた素晴らしい経験にることができてよかったです。

初体験がいっぱいのベルギー

大垣市立南中学校3年 中島 悠汰

【ナミュールのお祭り】

ベルギーのナミュール地方には、「Échasseurs namurois (竹馬合戦)」と呼ばれる祭りがあります。この祭りは1411年に始まったとされ、2021年にユネスコ無形文化遺産となりました。

9月20日に僕はこの祭りに連れて行ってもらいました。同じくユネスコ無形文化遺産である大垣祭りは道に沿って屋台が出ていますが、ナミュールのそのお祭りは体育館程度の大きさの5つほどの広場を中心とした広い範囲で賑わっていました。また、日本と違って屋台でいろいろな食べ物が売られているわけではなく、9割以上のお店がフリット(フライドポテト)、もしくはお酒を売っていてとても驚きました。お酒はとてもカラフルで、この祭りの陽気さを表しているかのようでした。ベルギーの人は、日本人よりもルールに厳しくなく、法律で禁止されていている18歳以下の飲酒に対しても考え方が緩く、お店の人やホストファミリーに「飲みなよ」と勧められ、日本との違いに衝撃を受けました。祭りは深夜までやっていて、高校生や大学生が集まる場所ともなっていました。



祭りのメインイベントである竹馬合戦は、2メートルほどの大きな竹馬に乗り、「メルヴェイユーズ(黄色と黒)」と「アルム(赤と白)」という2つのチームに分かれて、跳ったり押し合ったりして落とし



合います。この競技には長い歴史があるそうで、ルイ14世やナポレオンも見たそうです。そんな伝統的な競技が、今はテレビでも中継されていて、地域のお祭りとは思えないほど、周りにいた人全員が応援し、熱狂し、一つになっていました。この祭りは地域の人たちの心をつなぐ役割を果たしているのだと感じました。

この日はホストファミリーと過ごせる最後の夜でした。ほかの友達のホストファミリーが、ホームパーティーを開いてくれました。みんなでピザを食べたこと、バーレーボールをしたこと、踊ったことは今でも思い出として心の中に残っています。最後の最後までベルギーの人とたくさんの思い出を残せて本当に良かったです。

【ベルギーで人気なスポーツって何???



僕はベルギーのスポーツについて調べました。ベルギーで人気なスポーツは、サッカー、自転車競技、モータースポーツ(F1)などと言われています。サッカーではワールドカップで優勝してはいないものの、オリンピック優勝、世界ランキング1位などの実績があります。そのため、小さいころからサッカーをやる子供も多く、ベルギー国内のすべてのチームが「世界で活躍できる選手を育てるこ」を目標に掲げています。自転車競技ではツールドフランスと呼ばれる世界最高峰の大会の優勝者を何人も出しています。モータースポーツは日本ではありませんが、ベルギーではすごく人気があります。9月19日に訪れたルーヴアン・ラ・ヌーヴには選手の等身大パネルが置かれていました。

しかし、この3つのスポーツばかりをやっているというわけではありません。僕のホストシスターは、ホッケーをやっていました。ホームステイをしていた一週間で、練習の日が1日、試合が1試合ありました。ホストブラザーはマラソンをしていて、空いていた日に一緒にランニングをしました。また家にはバスケットボールコートやプールがあり、一緒に遊びました。このように、日本では一つのスポーツに熱を注ぐ人が多く、練習日も週に5日などの人も少なくありませんが、ベルギーでは複数のスポーツをやる人が多く、その分色々な経験ができるし、日本より家族との時間が大切にできて良いと思いました。

【ホストファミリーとの思い出】

僕のホストファミリーのロナ家は、お父さんのアラン、お母さんのキャサリン、大学生の姉のポーリンと兄のピエール、そしてルイーズです。ピエールは昨年の交流事業で僕の家にホームステイしに来てくれて、再会できるのが楽しみな反面、僕は初めてホームステイをするのでうまく英語でコミュニケーションがとれるかどうか心配でした。会うまでは、これから全部英語で話さなければいけないという不安と、いったいどんなことを体験できるのだろうという期待で胸がいっぱいでした。しかし、実際に会ってみるとたくさん話しかけてくれたおかげで緊張がほぐれました。また、着いた日の夜に日本で作って持って行った檜のキーホルダーをプレゼントしました。プレゼントをあげたときに、みんな興味津々に質問してくれたり、喜んだりしてくれて移動での疲れが吹っ飛びました。そして話のきっかけにもなり、すぐに仲良くなることができました。



僕が今回のホームステイで印象に残っていることは、毎食後にチョコレートを出してくれたことです。僕が「チョコレートが大好きで、たくさん食べたい」と連絡したからか朝も夜もチョコレートを出してくれました。チョコレートを食べた後は一緒にカードゲームや、テレビゲームをして遊びました。遊んだカードゲームは「セトウファミーユ」という名前で、ベルギー特有のカードゲームでした。ベルギーに関する、旗や、都市、食べ物などをそろえていくシンプルなゲームでしたが、ベルギーのことについてより知ることができました。また、ベルギーがいろいろな国の言葉を使うからこそ、1つのカードに3言語で書かれていて興味深かったです。

9月19日にタンタンミュージアムに行きましたが、ホストファザーがその前日にタンタンのことについて、すごく詳しく教えてくれました。僕のホストファミリーはタンタンが大好きだったようで、僕が寝ていた部屋にもタンタン、トイレにもタンタン、バスタオルにもタンタンがいました。そして日本に帰る際には、タンタンの本と、ファイル、フィギュアなどをお土産として買ってくれました。そのおかげで僕もタンタンが大好きになりました。



ホームステイをさせてもらった8日間は僕の大切な思い出です。ロナ家のみなさん、チョコレートを買いにスーパーマーケットにつれていってもらったこと、とても広い庭でトラクターを運転したこと、通っている大学を案内してくれたこと、全部とても楽しかったです。僕のホストファミリーになってくれて本当にありがとうございました。

言葉じゃ表しきれない素敵な世界

大垣市立南中学校3年 長屋 杏理

【ブリュッセル見学とホストファミリー対面】

9月14日、いよいよブリュッセル見学です!!

私たちは EU ビジターセンター、グランプラス、サンミッシェル大聖堂の3か所に行きました。

さて、最初の目的地であるEUビジターセンターにつきました。ガイドさんの説明を聞きながら、EUの歴史や国際的なことをたくさん学びました。展示されている画像について説明が聞ける機械を持ちながら館内を見学したのですが、そこから流れる音声は当たり前に英語で、テストのリスニングの5倍むずかしかったです。団員の仲間とお揃いのキーホルダーも買えてうれしかったです!!



そこから少し移動してお昼ご飯を食べました。ムール貝やスープ、フリットなどのベルギー料理をたくさん食べてすごくおいしかったです。

2か所目はグランプラスです。私がベルギーで絶対に行きたかった場所の一つです。小便小僧に当たり前だけど初めてお目にかかる「おお。。。はじめまして。。」って感じでした。触ると幸せになれる女神の腕にも触れて確実に幸せを手に入れました。

いよいよメインの広場であるグランプラスです。視界いっぱいに広がる美しい景色、この目で見たあの圧巻の景色は、間違いなく私の人生の財産の一つとなりました。写真で見るより圧倒的に生で見るほうがすごいし、いい意味で言葉を失うレベルです。その後は団員とお買い物をしてお揃いの帽子を買いました。すごくかわいくて、日本に帰ってもたくさん使おうと思いました。



グランプラスで感動した後はサンミッシェル大聖堂にいきました。ここでもまた壮大な建物に心を奪われて圧倒されました。中に入ると外の空気とは何か違う神聖な静寂が大聖堂全体を覆っていて、別世界に足を踏み入れたようでした。光に照らされて光るステンドガラスはすごく美しくてずっと見とれしていました。



すべての場所を見学し終えてついにホストファミリーと対面です。対面場所に向かうまではずっと心臓がバクバクで人生で過去一緊張したと思います。「やっと会えるんだ!!」という楽しみで仕方ない気持ちの反面、初めて会う人で言語や文化が異なるような環境で一週間も過ごせるのだろうか、と不安な気持ちもありました。むしろ後者の気持ちのほうが大きいくらいでした。そんな気持ちも持しながら、ついにホストファミリーと顔を合わせました。練習してきたフランス語で自己紹介をしたら笑顔で聞いてくれてすごく嬉しかったです。受け入れてくださった感謝の気持ちを忘れずに、心から一日一日をかみしめていこう、そう思った私の更なる冒険が始まりました。

【サッカーでの繋がり】

私は、探求テーマとして『ベルギーと日本のサッカーでの繋がり』について調べました。選んだ理由としては、ヨーロッパのサッカーを見るのが好きだからです。

まず、ベルギーサッカーでは、近年『黄金世代』と呼ばれる才能豊かな選手たちの活躍により、世界的な強豪国となりつつあります。主な有名選手はケヴィン・デ・ブライネ選手やロメル・ルカク選手で、世界屈指のプレイヤーです。一方日本もアジアを代表するサッカー強国であり、海外移籍などが活発になってきています。現在サムライブルーとして日の丸を背負って戦う選手の中にもベルギーへ移籍し、世界で活躍している選手もいます。ベルギーでの日本の主な有名選手は伊東純



也選手や三苫薰選手などでその他の選手もベルギーでの実績を積み、五大リーグへ移籍してたくさんの活躍を見ることができます。このようにベルギーと日本のサッカーでは世界ランク上位を目指すライバル国でありながら、選手の移籍や代表戦などを通して大切な繋がりをもっています。ホストブラザーなどもサッカーが好きな子が

いて、その話題から仲良くなったりたくさん話す機会になったりする

ので、スポーツは世界共通で人と人をつないでくれるんだな、と実感しました。

【人生の宝物】

この研修を通して一番に思うのは、本当に毎日が濃かったな、ということです。ホームステイをはじめとして、団員や他の団員のホストシスター・ホストブラザーと過ごした時間は本当にどれもかけがえのない時間で、一生の思い出になりました。

ホームステイでは笑顔が絶えない幸せな一週間でした。私のファミリーはファザー、マザー、シスターのお姉ちゃん、シスターの4人家族でした。最初は緊張しすぎて思うように英語が出てこないし、正直しんどかったです。でも家族みんながすごく気を遣って優しくしてくれたので一晩寝たら次の日からは、笑顔でたくさんコミュニケーションをとることができました。また、ある日の学校が終わった



放課後、シスター・シスターの友達としたカードゲームがすごく楽しかったです。英語でのルール説明を聞き取るのに少し苦戦したけど、一回試しにやってみたり、シスターたちがゆっくり私にわかるように話してくれたりして、なんとかルールを理解して楽しむことができました。そして今度は逆に私が日本でのトランプのゲームである「七並べ」を英語で説明しました。私の頭の中の英語の引き出しをとにかく開けて何とか説明することができました。みんなに楽しんでもらえて本当に良かったです。英語をたくさん使ったのでまた一段階成長できたのかな、と思います。そしてファミリーには休日



にナミュールのお祭りや「モダーヴ城」という歴史あるお城に連れて行ってもらいました。そのお城というのはマザーとファザーが結婚記念写真を撮った場所だそうで、すごくロマンチックでした。

このようにここには書ききれませんがたくさんの思い出が写真を見返すたびによみがえってきます。最初は不安や緊張でどうなるかと思ったけど、最終的に最後のお別れの日は涙でいっぱいでした。帰りたくなかったです。そう思えるような日々をくれた私のファミリーには感謝しかないし大好きです。人生の宝物と学びをたくさんもらった一週間でした。

世界を知れた研修

大垣市立赤坂中学校3年 ラングレス 志土

【事前研修・ベルギー到着まで】

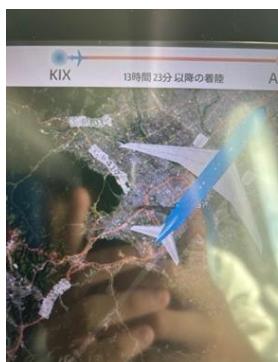
今回の第10回ベルギー・ナミュール市派遣団のメンバーは、ベルギーに行く前の4回の事前研修を通してメンバー全員が仲良くなりました。

事前研修では、ベルギーではどのような事をしたり、問題にはどのように対処すべきなどを学んだ事と、自分達でベルギーについて調べてくる宿題やベルギーでベルギーの人たちに発表するプレゼンを作ることをしました。そして4回の事前研修のうち、2回フランス語の講師の方に来ていただいて、簡単な単語だけですがフランス語も学びました。



そしていよいよ大垣を離れる時になって、各家庭の保護者の方に岐阜羽島駅まで送ってもらい、見送りをしてもらいました。そして関西国際空港までの移動中の電車内では、楽しみという気持ちと、ベルギーでうまくやっていけるか心配の声が半々でした。でもそれが自分たちで心を落ち着かせるために色々なことをしました。男子は4人ともが同じゲームを入れてローカル対戦などをして楽しんだりもしました。

空港に到着してからは手続きなどを進めて搭乗時間が近づくにつれて、「本当にベルギーに行くんだ!」とどんどん実感が湧いてきました。



そして、いよいよ離陸した時に僕は、少し早すぎるかも知れないけど、とっても感動しました。自分の夢だったことがついに叶うとなると、本当に感動しかありませんでした。関西国際空港から離陸してしばらく経った頃にモニターでどこを飛んでいるか見たら、まさかの大垣市のちょうど真上を飛んでいました!!

自分たちの家という出発した場所の真上を飛んでいたことは、とてもびっくりでした。

これらのように、自分たちが事前研修でさまざまな事をやって楽しんで仲を深めたからこそ、今回のようにベルギー研修がとても楽しくできて、良い経験と良い仲間に出会えたんだと思います。

【日本とベルギーの様々な違いについて】



僕の探求テーマである日本とベルギーの様々な違いを知ることについてでは、主に食と街並みについて話します。まず食では、皆さんも想像できるとは思いますが、お米はほとんど食べません。僕のホストファミリーの主食はパンでした。パンと言っても日本で多く食べられている「食パン」ではなく、ライ麦パンのような物がほとんどでした。次に街並みでは、いろいろな家が18世紀、19世紀のような古いレンガ造り

の家がほとんどでした。ですので、観光地に行かなくても、家の周辺を歩くだけでもう観光地にいる気分になれるぐらい、とても美しい家ばかりでした。そして、そのほかに気づいた違いで、かなり気になったのが、ベルギーと日本を比べた時の圧倒的な電気自動車の普及率です。街中を歩いている時もそうだし、車に乗っている時に外を見ても電気自動車が多いなと感じました。そのことから、ベルギーでは日本よりも環境に対する意識が高いと思いました。

【一生忘れられないベルギーでの思い出】

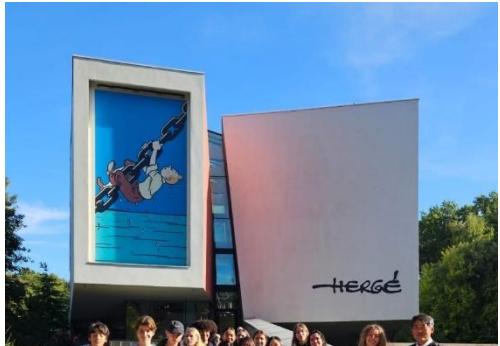
ベルギーでは、自分の人生が変わったと言っても過言ではないほど、様々な思い出が出来ました。現地の学校での想い出、みんなで行ったナミュール市内やブルージュなどでの観光、そしてホストファミリーと過ごした時間などです。本当に信じられないくらい最つつつつつ高な思い出ばかりです。また、Champion学校での思い出では、学校の見た目に驚いたことはもちろんですが、



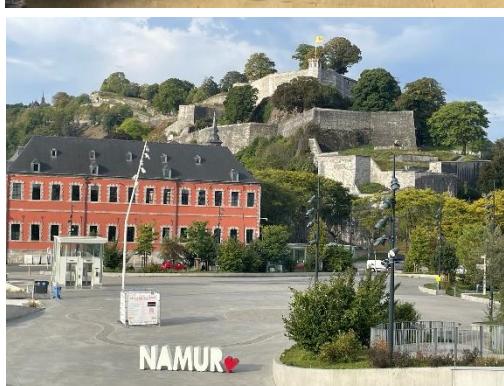
様々な交流があって、今回の交流メンバー以外でも、友達が出来たことです。僕のホストブラザーは登校が早く、いつも会うメンバーらしき人たちとも仲良くなることができました。そして、今回全ての思い出が1番と言えるけど、その中でもホストファミリーと過ごした思い出がとても心に残っています。特に、9月20日の土曜日に、ホストファミリーと丸々1日過ごした日に、サックスの街「ディナン」の方に行って、ホストファザーとホストブラザーのマティスと一緒にカヤックで川を下ったことがとても楽しかったです。人生初のカヤックがまさかのベルギーで、そしてそれがホストブラザーと出来たことが本当に嬉しくて、一生思い出に残るものになりました。川に途中に崖があってその上に城があって、とてもびっくりしました。そしてカヤックの後は昼ご飯を食べてディナン市内を観光して、サックスで有名だった人についてのところに行きました。そして夜には、レナのホストファミリーのエリーゼの家で、みんなでパーティーをしました。外でバレーをしたり、トランポリンをしたりして遊んだのと、夜ご飯にはたくさんのピザを食べて、その後はみんなそれぞれいろんなことをして遊んだのと、みんなでダンスをしたりもしました。

このようにベルギーでさまざまな事を学び楽しんで来ることができて、行ったのはベルギーだけですが、タイトルのように、世界中を知れた気がしました。



















Chika and Louna's family



Yu and Cloé's family



Ichino and Laura's family



Natsu and Amalya's family



Rena and Elise's family



Wataru and Antoine's family



Haruto and Arthur's family



Yuta and Louise's family



Anri and Eléonore's family



Shido and Mathis's family

第10回 大垣市中学生ベルギー・ナミュール市研修派遣報告書

編集 公益財団法人 大垣国際交流協会

大垣市室本町5丁目51番地 スイトピアセンター学習館2階

TEL:0584-82-2311 URL:<https://www.i-oiea.jp>

発行 令和7年(2025年)12月